

# 【救急科】

## 1 研修目標

救急患者に適切に対応することは極めて重要である。本プログラムは救急疾患に対処するために必要な知識および技術の習得を目的とする。

### (1) 一般目標

- ・多様な救急疾患への対応：一般的な救急疾患（外傷、中毒、感染症、循環器疾患、呼吸器疾患、神経疾患など）に対して、適切な初期診療を行うための基本的な知識と技能を習得する。
- ・重症度・緊急度の判断：患者の重症度と緊急度を迅速かつ正確に判断し、適切なトリアージと優先順位付けを行うことができる。
- ・チーム医療の実践：救急外来における多職種連携（医師、看護師、放射線技師、検査技師など）の重要性を理解し、円滑なコミュニケーションと協働を通してチーム医療を実践できる。
- ・安全管理と倫理：医療安全の重要性を認識し、インシデント・アクシデントを防止するための行動を実践できる。また、救急医療における倫理的な課題を理解し、適切な判断と行動ができる。

### (2) 行動目標

- ①バイタルサインの評価：バイタルサイン（呼吸、脈拍、血圧、体温、意識レベル）の測定方法と異常値の解釈を説明できる。
  - ②病歴聴取と身体診察：救急患者に対する適切な病歴聴取と身体診察の手順とポイントを説明できる。
  - ③主要な救急疾患の知識：主要な救急疾患（例：急性心筋梗塞、脳卒中、呼吸不全、ショック、外傷、熱中症など）の病態、症状、診断、初期治療について説明できる。
  - ④検査と画像診断：救急診療で用いられる検査（血液検査、尿検査、レントゲン、CT、超音波検査など）の目的、方法、解釈について説明できる。
  - ⑤救急処置：気道確保、酸素投与、輸液、止血、創傷処置、心肺蘇生などの基本的な救急処置の手順と注意点を説明できる。
  - ⑥薬物療法：救急診療で用いられる薬剤（例：昇圧剤、鎮痛剤、抗生物質など）の作用、投与方法、副作用について説明できる。
- トリアージ：トリアージの概念と方法（例：JCS、JPTEC、STARTなど）を説明し、実践できる。
- ⑦医療安全：医療安全に関する基本的な知識（例：インシデント報告、感染対策、患者識別など）を説明できる。
  - ⑧法的・倫理的側面：救急医療における法的・倫理的な課題（例：インフ

フォームドコンセント、個人情報保護など)を説明できる。

## 2 研修方略

### (1) 研修期間

定められた8週間

### (2) 方法

各行動目標の研修は来院された救急患者の診療を通して行われる。指導医の監督のもと助言を得ながら、問診、診察、検査のオーダー、様々な医療行為が行われる。

平日朝の診療開始前に前日診療の振り返りと当日の目標設定を行う。来院した救急患者の診療を行う。勤務終了時にその日の診療の振り返りを行い、指導医からの指導を受け、翌日に向けて目標設定を行う。

### (3) 週間スケジュール

月～金曜日の日勤帯、および指導医の日当直勤務帯：救急来院された患者に実地診療

## 3 研修責任者

救急科 部長 河村 宜克

## 4 研修指導医

救急科 部長 河村 宜克

## 5 評価

毎日勤務前と勤務後における振り返りを通じて診療に関してフィードバック、評価を受ける。また、経験すべき疾患、病態については初期研修医が経験した症例についてEPOCの入力を行い、それを通じて評価を行う。研修期間終了時にEPOCの評価項目に沿って全体の評価を行う。